



平成 28 年 9 月 1 日 現在

世帯数	5,974 戸
人口	15,682 人
男	7,584 人
女	8,098 人

18区町会 慰安旅行



私の住んでいる 18 区町会では、2 年に 1 度参加者が集い日帰りの旅行を行っています。老若男女を問わず、町会の親睦を深めるために行われてきた旅行ですが、私自身はなかなか都合がつかず参加できませんでしたが、今回ようやく家族で参加することができました。

さて、今回の旅行の行き先ですが、恵那峡遊覧船をメインとしたその周辺施設等を巡るバス旅行です。7 月 24 日、朝 7 時半に公民館に集合し、車内後部座席にラウンジのついた大型の豪華なバスに乗り込み、いざ、出発です。私も妻も、4 才と 2 才の息子達もワクワク、ドキドキです。

今回の旅行の参加者は 30 名程で、私達の様な家族連れや役員の方等移動の車中も賑やかでした。私も久しぶりのバス旅行ということもあり、自然と笑顔がこぼれ、息子

と車窓からの景色を見たりお菓子を食べたりと、思っていた以上に楽しんでいる自分がいました。

まず最初の目的地はストーンのミュージアム博石館です。日本三大鉱物の産地、岐阜県中津川市蜷川にある石のテーマパークです。



私達家族は砂金探しとピラミッドの地下迷路を楽しみました。地下迷路は、ゴールまでなかなか

か辿りつけず、息子達の手を引き、大丈夫だぞーと言いつつも内心は少しドキドキでした。

ストーンミュージアムを後に、次は湯快リゾート恵那峡国際ホテルでのバイキング昼食です。実はこれが一番の楽しみでした(笑)。沢山の色々な料理についていっく欲張りお腹がはち切れそうになるまで食べてしまいました。妻も子供達も楽しそうに食べている姿に参加して良かったと感じ、お腹だけでなく気持ちも満腹になりました。

昼食の後は、いよいよ本命の恵那峡遊覧船です。恵那峡は、木曾川をせき止め造られた人造湖で、地理学者の志賀重昂氏により名付けられた自然と人工の美しさが巧みに調和した峡谷です。ジェット船に乗り込みガイドさんの説明を聞きながらのクルージングスタートです。獅子岩・屏風岩・品の字岩等、おもしろい形の岩々が次々と現れます。



息子達は、「あの岩は、ゴジラ岩だ!」となかなか言い得た名付けをしていて驚きました。青い水、白いさざ波緑の岩壁、さほど長い時間ではありませんでしたが、美しい景色を間近に見ながらの、非日常の一時を感じられる楽しいクルージングでした。

メインクルージングの後は、旅のラストをしめくくるお土産タイムです。恵那銀の森という色々な店舗が建ち並ぶお土産広場とでもいった場所です。ここでは思い思いのお土産を買い、庭園の様に造られた敷地の中、こもれ陽を浴びながら散策しました。

日帰りという短い時間の旅行でしたが、地区の皆様ともまた違った角度から触れあうこともできました。心地よい疲れの中、まどろむ車中で、また参加したいと思いました。2 年後が楽しみです。

水輪花火大会

7 月 30 日土曜日。今年も夏の楽しみの一つでもある水輪花火大会。天候にも恵まれて朝からウキウキ気分。



振りまいていました。夜 8 時、大きい音と共に夜空に綺麗な花火が上がり、皆は興奮状態。胸に響く感じは何ともいえない心地良さ。心配していた 3 カ月の息子は初めて音や大きい花火に驚き、泣いてしまいました。が、暫くすると音にも慣れてきた様で、空に上がる花火を不思議そうに眺めていました。


料理やお酒を持ち寄り盛大に。その前に会場に足を運び、祭り気分は絶好調。今年も沢山の催しがあり、見る人を楽しませてくれました。年々祭りに来る人が増えている様です。波田といえばスイカ! 梓川といえばリンゴ! 今後も人気が高まること間違いなしだと実感しました。出店の数や種類も多く何を食べようかと悩んでしまうほど。結局、意見がまとまらず、それぞれが好きな食べ物を買い、凄じい量に。まあ年に 1 回の祭りなので、「いいかつ」と会場を後にしました。

総勢 7 名での花火観賞。私は今年で 3 回目の祭り。5 月に誕生した長男も甚平を着て仲間入り。嬉しい様でニコニコ笑顔を



冬は寒さは厳しいですが、四季の移り変わりを肌で感じ旬の食べ物を頂き、1 年があつという間に過ぎていきます。この素晴らしい自然を大切に、次世代へ残していくことが望みであります。すっかり涼しくなり、季節は冬に向けて準備が始まっているかのようです。また夏の花火を心待ちにして、毎日大切に過ごしていきたいと思っております。皆の笑顔が楽しみだなあ。。。

25区
納涼夏祭り



7月23日(土)、25区町会において恒例の納涼夏祭りが開催されました。

天候にも恵まれ、各組長さん役員さんの尽力により準備も整い、午後6時、町会住民の交流拠点の北原西公園に、燈籠が赤々と灯されました。

このお祭りは30年以上続いている25区伝統の行事であります。定番の綿あめ・水風船釣り・空くじ無しの三角くじは今年の人気でした。

子供達にはお菓子や花火が配られ、テーブル席には老若男女入り混じって、お料理・お酒・スイカ等が用意され、幾つもの親睦の輪が広がりました。

今年の新イベントとして、子供たちによる「岩魚のつかみ取り大会」を企画しました。公園内に4メートル角のプールを作り、岩魚を放流しました。俊敏な岩魚を子供たちが素手で捕まえる



度、周囲の大人たちは一斉に大声を上げ、大いに盛り上がりました。岩魚は炭火

で塩焼きにして、約百名の来場者全員に振る舞い、岩魚の炊き込みご飯と、焼き岩魚で取っただし汁をかけたお茶漬は絶品で、おかわりする人が続出しました。

こうして午後8時、大盛況のうち今年25区納涼夏祭りは終わりました。しかしながら、昔を知るご年配の方々は、祭りの環境は大きく様変わりしているといひます。それは、祭りの中心にいるべき子供達の人数が極端に減少しているという点とです。20数年前は、子供達の方が遥かに多かったようです。少子高齢化はどの地区でも頭を悩ましている課題ですが、その上に隣近所の付き合いも希薄化し、町会活動や行事への関心も低下しています。



しかし、この祭りを通して、この祭りを存続継承していくことが、新旧住民や世代間の交流を活性化し、いわゆる「地域の絆」を形成し保持していく上で、少しでも貢献すること。それこそが私たち25区町会の願いでもあります。

(M・K)

波田少年少女合唱団

第二回「山の日」記念

全国大会出演

8月11日の「山の日」は16番目の国民の祝日として誕生し、記念全国大会が、北アルプスの玄関口である上高地で、祝祭式典がまつもと市民芸術館で行われました。

波田少年少女合唱団は、祝祭式典において、山の未来を歌声に乗せ、「美しいチロル」の他、山の日之歌の公募で最優秀賞のひとつ「山はふるさと」の2曲を芸術館いっぱい、美しいハーモニを響かせました。



写真は、本番で歌う波田少年少女の様子です。

団員は、前日の午後、当日の午前中と2日間に渡りリハーサルを重ね、当日の午後、本番を迎えました。

夏休み。朝から子供達が広場に集まり、ラジオ体操をする姿を見かけます。最近、夏休みの平日のみで土日はやらないという地区もあるようですが、このラジオ体操、実は90年程前から行われているといわれています。私の職場でも、就業前にラジオ体操をしてから仕事を始めますが、リズムに合わせしつかりやると体全体の筋肉や関節をバランスよく動かすように構成されていて、ダイエット効果も期待できるとか。

そしてこの夏、リオではオリンピックが開催され、毎日多くの日本人がメダルを取り、活躍する場面を御覧になる機会もあつたかと思ひます。

何か運動を始めてみようと思わせてくれるような元気や感動を与えてくれる選手、競技もありました。私自身、最近運動することがなくなり、何か体力を維持するためにもやらなければと感じていたこの頃、まずは職場でするラジオ体操。小さなことですが、日々の積み重ねが大切だと思ひました。

ラジオ体操の曲がかかれば、自然と体が動きます。日本の素晴らしいもののひとつだと思います。皆様も、どうかご自身の健康にも留意してください。

2016 山の日
8.11

岳都・松本